様式2

都市再生整備計画　事後評価シート
上山城周辺地区

平成28年3月

山形県上山市

様式２－１　評価結果のまとめ

都道府県名	山形県	市町村名	上山市	地区名	上山城周辺地区			面積	41.4ha
交付期間	平成23～27年度	事後評価実施時期	平成27年度	交付対象事業費	1,087百万円	国費率	0.437		

1）事業の実施状況

		事業名
当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	市道軽井沢十日町線、市道上山城通り線、市道新丁湯町線、憩い空間（多目的広場）（A=132㎡）、憩い空間（多目的広場）（A=173㎡）、上山城拠点機能強化事業（広場舗装）、歩行者誘導舗装整備事業、月岡公園外周遊歩道整備計画、ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝﾄｲﾚ推進事業、温泉クアオルト拠点整備事業
	提案事業	十日町通り電柱移設調査事業、上山城拠点機能強化事業、高齢者サロン設置事業、高齢者サロン設置社会実験事業、事業の中間及び事後評価、十日町通り景観形成支援事業

		事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
当初計画から削除した事業	基幹事業			
	提案事業			
新たに追加した事業	基幹事業	市道新湯通り線、駐車場整備事業、湯樋線歩道整備、西内堀周辺環境整備、コミュニティーセンター整備事業	これまでに位置付けた各種事業などとの連携を想定し追加	回遊性の向上などに寄与するが指標及び数値目標は据え置く
	提案事業			

交付期間の変更			交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響
	当　初	平成23年度～平成27年度	
	変　更	同上	

2）都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況

	指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み		効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
指標1	中心市街地観光入込客数		人/年	265,213	H20	267,000	H27	221,663	213,270	△	あり		観光入込客数は東日本大震災の影響で大幅に減少した。しかし、本計画期間である平成23年度以降観光客数は回復傾向にあり、これには本計画に位置づけた道路や多目的広場、歩行者誘導サイン整備による回遊性の向上などによる効果があったものと考えられる。	平成28年４月末
											なし	●		
指標2	歩行者・二輪車通行量		人/日	4,692	H21	4,825	H27	3,365	2,534	△	あり		観光地でもある本地区の歩行者・二輪車通行量は、東日本大震災の影響により観光入込客数とともに大きく減少した。しかし、平成24年度以降、徐々に通行量は回復しており、本計画に位置づけた関連事業による整備の効果があったものと考えられる。	
											なし	●		
指標3	中心市街地への居住意向率		%	15	H20	20	H27		16	△	あり		中心市街地への居住意向率は、目標の達成はできなかったが、従前値より高い割合となっており、本計画に位置づけた関連事業による観光客に配慮した環境整備、観光入込客数の回復によるにぎわい創出が観光地でもある地区の魅力を高め、居住意向率の上昇にも寄与していると考えられる。また、生活関連施設であるコミュニティセンター（平成27年度完成）の供用開始が早ければ、さらなる居住意向率の上昇に寄与していたと考えらえる。	
											なし	●		
指標4											あり			
											なし			

3）その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況

	指　標	単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
その他の数値指標1												
その他の数値指標2												

4）定性的な効果発現状況

5）実施過程の評価

	実施内容	実施状況		今後の対応方針等
モニタリング	事業の中間評価(平成25年度)	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
住民参加プロセス	十日町地区景観・まちづくり協議会の設立と事業活動	都市再生整備計画に記載し、実施できた		引き続き実行していく。
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●	
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
持続的なまちづくり体制の構築	事業終了後も、上山市中心市街地活性化協議会等との連携を継続し、官民が目標を共有し、協働してまちづくりを進める。	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	本協議会の意見等は、今後の本地区のまちづくりにも反映していく。
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		

様式２－２　地区の概要

上山城周辺地区（山形県上山市）　都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標：住んで良し・訪れて良し、上山城周辺の風情を活かし、賑わいと居心地良さが同居した中心市街地の再生 目標1：歴史や街並み、温泉を活かした、歩いて楽しいまちの形成 目標2：一人ひとりが主役となる、居心地良いまちの形成	中心市街地観光入込客数	人／年	265,213	H20	267,000	H27	213,270	H27
	歩行者・二輪車通行量	人／日	4,692	H21	4,825	H27	2,534	H27
	中心市街地への居住意向率	%	15	H20	20	H27	16	H27

新湯通り線

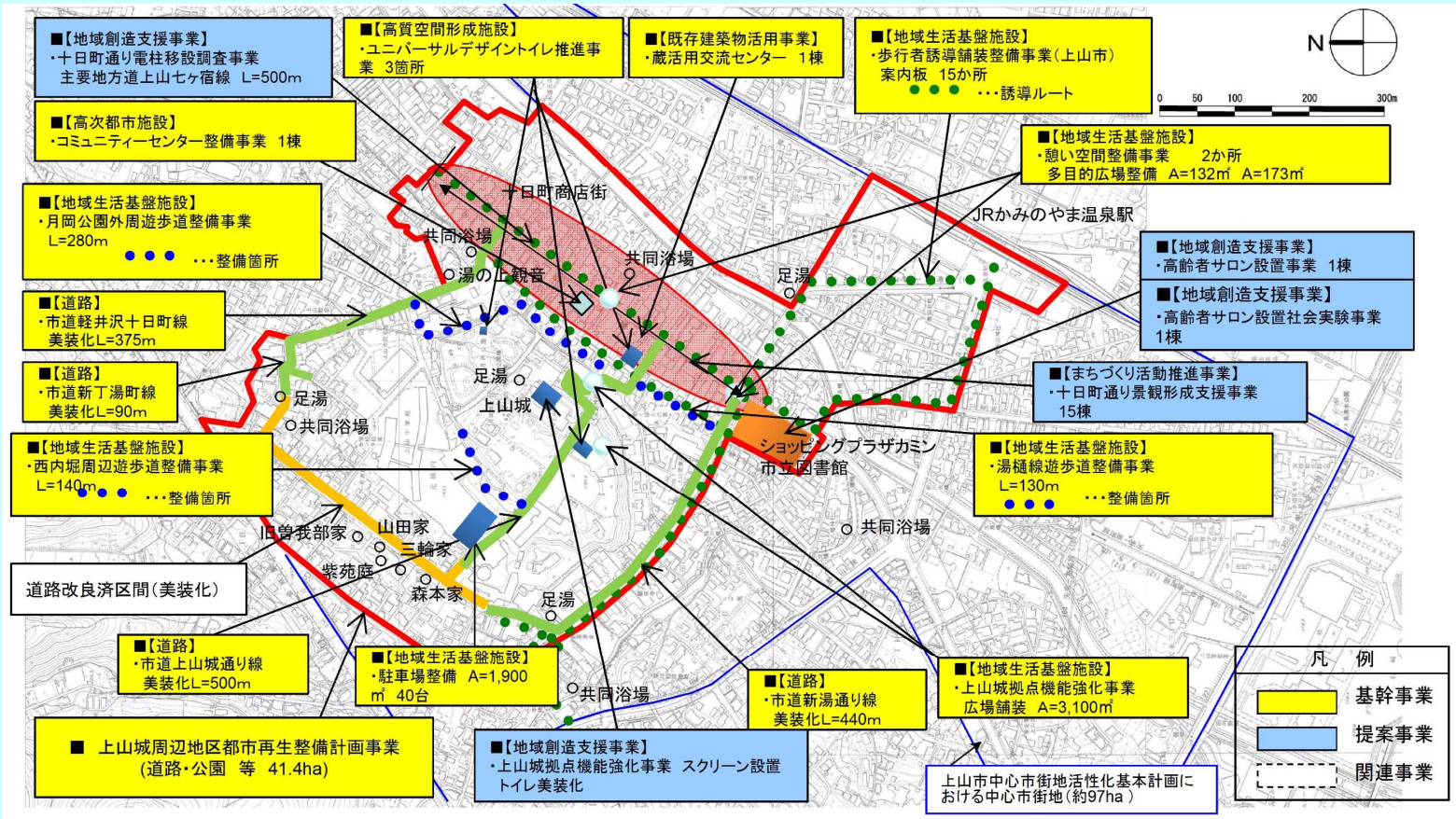
上山城通り線

軽井沢十日町線

多目的広場

上山城第1広場

上山城第2広場



駐車場

歩行者誘導案内板
（歩行者誘導舗装）

月岡公園外周遊歩道

湯樋線遊歩道

ユニバーサルデザイントイレ

コミュニティセンター

まちの課題の変化	本事業の実施過程、実施結果において一定の成果が上がったが、今後は歩行者が回遊するまちづくりのため、歩きやすく歴史や街並み、温泉を活かした空間整備が課題である。 また、移住や定住につながる住み良いまちの形成のため、居住環境の整備が課題である。 JRかみのやま温泉駅周辺との連携を図り、駅を利用する観光客が本地区を回遊するようにしていく必要がある。
今後のまちづくりの方策（改善策を含む）	・より多くの観光客を迎え入れるため、上山城に隣接する月岡公園の魅力向上や、歴史や街並み、温泉を活かした歩きやすい回遊ルートを整備するなど、歩いて楽しいまちの形成に必要な環境整備を実施する。 ・市の玄関であり交通結節点であるJRかみのやま温泉駅の周辺整備を図り、中心市街地との連携を強化する。 ・中心市街地への移住・定住を進めるため、居住環境の整備等定住につながる事業を推進する。

都市再生整備計画　事後評価シート
（添付書類）

（1）成果の評価

添付様式1－①　都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
添付様式1－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（完成状況）
添付様式2－①　都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
添付様式2－②　その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）により計測される効果発現の計測
添付様式2－参考記述　定量的に表現できない定性的な効果発現状況

（2）実施過程の評価

添付様式3－①　モニタリングの実施状況
添付様式3－②　住民参加プロセスの実施状況
添付様式3－③　持続的なまちづくり体制の構築状況

（3）効果発現要因の整理

添付様式4－①　効果発現要因の整理にかかる検討体制
添付様式4－②　数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
添付様式4－③　数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

（4）今後のまちづくり方策の作成

添付様式5－①　今後のまちづくり方策にかかる検討体制
添付様式5－②　まちの課題の変化
添付様式5－③　今後のまちづくり方策
添付様式5－参考記述　今後のまちづくり方策に関するその他の意見
添付様式5－④　目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
添付様式6　当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
添付様式6－参考記述　今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称（当該地区の次期計画も含む）

（5）事後評価原案の公表

添付様式7　事後評価原案の公表

（6）評価委員会の審議

添付様式8　評価委員会の審議

（7）有識者からの意見聴取

添付様式9　有識者からの意見聴取

（1）成果の評価

添付様式１－①　都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他（計画期間・交付期間）		●			

添付様式１－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（事業の追加・削除を含む）

基幹事業

事業	事業箇所名	当初計画 事業費	当初計画 事業内容	最終変更計画 事業費	最終変更計画 事業内容	当初計画からの変更の概要 ※1（事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況 完成	事後評価時の完成状況 完成見込み
道路	市道軽井沢十日町線	89	道路の美装化 L＝375m	91	道路の美装化 L＝375m	第２回変更時に当時の実情にあわせて事業費を増加	影響なし	●	
道路	市道上山城通り線	121	道路の美装化 L＝500m	121	道路の美装化 L＝500m			●	
道路	市道新丁湯町線	17	道路の美装化 L＝90m	17	道路の美装化 L＝90m	財政事情により、市単独事業で整備することとした	影響なし		
道路	市道新湯通り線			100	道路の美装化 L＝440m	上記3道路の整備などとの相乗効果を考慮し第２回変更時に追加	回遊性の向上に寄与するが指標及び数値目標は据え置く	●	
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	憩い空間（多目的広場）（A=132㎡）	7	ポケットパーク整備 A=132㎡	8	ポケットパーク整備 A=132㎡	第１回変更時に当時の実情にあわせて事業費を増加	影響なし	●	
地域生活基盤施設	憩い空間（多目的広場）（A=173㎡）	5	ポケットパーク整備 A=173㎡	12	ポケットパーク整備 A=173㎡	第１回変更時に当時の実情にあわせて事業費を増加したが、他事業でコミュニティセンター用駐車場を整備	影響なし		
地域生活基盤施設	上山城拠点機能強化事業（広場舗装）	66	広場の舗装、擬木柵設置等 A=3,100㎡	55	広場の舗装、擬木柵設置等 A=3,100㎡	第１回変更時に当時の実情にあわせて事業費を削減	影響なし	●	
地域生活基盤施設	駐車場整備事業			8	A=1,300㎡ 40台	これまでに位置付けた各種事業などとの連携を想定し第２回変更時に追加	回遊性の向上に寄与するが指標及び数値目標は据え置く	●	
地域生活基盤施設	歩行者誘導舗装整備事業	4	歩行者誘導サイン設置 15箇所	4	歩行者誘導サイン設置 15箇所			●	
高質空間形成施設	月岡公園外周遊歩道整備計画	54	L=280m ﾌﾞﾛｯｸ舗装A=525㎡ 擬木転落防止柵　L=100m	68	L=280m ﾌﾞﾛｯｸ舗装A=525㎡ 擬木転落防止柵　L=100m	第２回変更時に当時の実情に合わせて事業内容（舗装の仕様）を見直し事業費を増加	影響なし	●	
高質空間形成施設	湯樋線歩道整備			22	L=130m 石畳風舗装A=340㎡ 擬木転落防止柵　L=85m	これまでに位置付けた各種事業などとの連携を想定し第２回変更時に追加	回遊性の向上に寄与するが指標及び数値目標は据え置く	●	
高質空間形成施設	西内堀周辺環境整備			16	L=140m ｳｯﾄﾞﾁｯﾌﾟ舗装　A=280㎡ 擬木転落防止柵　L=60m	これまでに位置付けた各種事業などとの連携を想定し第２回変更時に追加したが、財政事情により、市単独事業で整備	回遊性の向上に寄与するが指標及び数値目標は据え置く		
高質空間形成施設	ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝﾄｲﾚ推進事業	22	トイレのバリアフリー化 3箇所	54	トイレのアフリー化 3箇所	第２回変更時に改修を予定していた建物の変更（１箇所分）に伴う事業費の増加	影響なし	●	
高次都市施設	コミュニティーセンター整備事業			369	1棟	これまでに位置付けた各種事業などとの連携を想定し第２回変更時に追加	中心市街地への居住意向の向上に寄与するが指標及び数値目標は据え置く	●	
既存建造物活用事業	温泉クアオルト拠点整備事業	50	蔵1棟を改修しクアオルト拠点施設等として整備	50	蔵1棟を改修しクアオルト拠点施設等として整備	事業の実施箇所が変更となる予定であり、設置場所選定に時間を要することから、計画期間内に実施できなかった	影響なし		
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業（都市再生）									
住宅市街地総合整備事業									

※1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式１－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（事業の追加・削除を含む）

基幹事業

事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの変更の概要 ※1（事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業

事業	細項目	当初計画 事業費	当初計画 事業内容	最終変更計画 事業費	最終変更計画 事業内容	当初計画からの変更の概要 ※1（事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況 完成	事後評価時の完成状況 完成見込み
地域創造支援事業	十日町通り電柱移設調査事業	3	L＝500mを対象とした無電柱化に向けた調査実施	3	L＝500mを対象とした無電柱化に向けた調査実施			●	
	上山城拠点機能強化事業	30	上山城を新たな観光施設として整備	43	上山城を新たな観光施設として整備	第2回変更時に当時の実情に合わせて事業費を増加	影響なし	●	
	高齢者サロン設置事業	12	空き店舗を利用した高齢者サロン1棟の設置	12	空き店舗を利用した高齢者サロン1棟の設置	他事業との関係で設置場所選定に時間を要し、計画期間内に実施できなかった			
	高齢者サロン設置社会実験事業	8	高齢者サロン設置に関する社会実験（アンケート等）の実施	17	高齢者サロン設置に関する社会実験（アンケート等）の実施	第2回変更時に事業期間の延長に伴い事業費を増加	影響なし	●	
事業活用調査	事業の中間及び事後評価	2	事業の中間及び事後評価	2	事業の中間及び事後評価			●	
まちづくり活動推進事業	十日町通り景観形成支援事業	15	町家のファサード改修に対する補助	15	町家のファサード改修に対する補助	第2回変更時に当時の実情を踏まえて対象を5棟から15棟に拡大	影響なし	●	

※1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

（参考）関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費 当初計画	事業費 最終変更計画	事業期間 当初計画	事業期間 最終変更計画	進捗状況及び所見	備考
無電柱化事業（裏配線）		十日町通り	154	154	平成28年度～平成31年度	平成28年度～平成31年度	本計画に位置付けた十日町通り電柱移設調査事業で検討した内容に基づき、引き続き可能性を調査する。	

添付様式２－①　都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指　標		単位	データの計測手法と評価値の求め方（時期、場所、実施主体、対象、具体手法等）	（参考）※1 計画以前の値（ア）	基準年度	従前値（イ）	基準年度	目標値（ウ）	目標年度	数値（エ）				目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
																あり	なし
指標1	中心市街地観光入込客数	人／年	・1年間（4月～翌3月）温泉入浴客数、上山城入館者数、武家屋敷三輪家入館者数の合算値。 ・各所管課から入手した平成27年9月までの月別データと過去の傾向から評価値を推計。			265,213	H20	267,000	H27	モニタリング	H25		221,663	モニタリング	△		●
										事後評価	確定		213,270	事後評価	△		
											見込み	●					
指標2	歩行者・二輪車通行量	人／日	・8時から19時までの「旧山交待合所」「桜井ボタン店前」「石崎A1前」「カミン前」「やぐら前」「旧トキワ館前」「旧ミヨシヤ前」の歩行者・二輪車通行量。 ・商工課から入手した平成27年9月6日の調査結果を活用。	265	H18	4,692	H21	4,825	H27	モニタリング	H25		3,365	モニタリング	△		●
										事後評価	確定	●	2,534	事後評価	△		
											見込み						
指標3	中心市街地への居住意向率	%	・アンケート結果による中心市街地への居住意向がある回答者の割合。 ・建設課で平成27年12月～平成28年1月に実施したアンケート結果を活用。			15	H20	20	H27	モニタリング				モニタリング			●
										事後評価	確定	●	16	事後評価	△		
											見込み						

指　標	目標達成度○△×の理由（達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む）	その他特記事項（指標計測上の問題点、課題等）
指標1	観光入込客数は、東日本大震災後が発生した平成22年度に急激に減少したが、本計画期間である平成23年度以降は回復傾向にある。平成27年度の観光入込客数は温泉入浴客数の減少が影響し、平成20年度、平成25年度よりも少ないが、近年で最低だった平成22年度よりは多くなると推計される。さらに、上山城入館者数と武家屋敷三輪家入館者数は計画期間中で最大になると見込まれる。このことから、蔵王山の火山活動の活発化、サクランボの不作といった特殊事情があった平成27年度の目標は達成することが難しいと考えられるが、本計画に基づく各種事業は近年の観光入込客数の回復には寄与していると考えられる。	平成27年の見込み値は、4月の蔵王山の火山活動の活発化や、サクランボの不作という特殊事情が影響して少なくなっている面もある。しかし、回復傾向もみられており、フォローアップで示す確定値は平成26年度と同程度にはなると期待される。
指標2	通行量は、従前値を計測した平成21年度に比べ東日本大震災後は急激に減少したが、その後徐々に回復している。平成27年度は調査日に午後から雨が降ったため通行量は多くなかったが、それでも歩行者通行量は平成25年度より多い。このことから、平成27年度の目標を達成することはできなかったが、本計画に基づく各種事業は近年の通行量の回復には寄与していると考えられる。	計測される通行量は調査日の天候に左右されるため、今後も歩行者・二輪車通行量を指標などに用いる場合には、予備の調査日を設定するなど、できるだけ同じ条件で計測できるよう配慮する必要がある。
指標3	中心市街地への居住意向率は目標の達成はできていないが、従前値よりは高い割合となっており、本計画に位置づけた各種事業が寄与したと考えられる。	本指標のようにアンケート結果を指標として用いる場合、評価時におけるアンケート実施方法などをあらかじめ考慮しておく必要がある。

※1　計画以前の値　とは、都市再生整備計画の作成より以前（概ね10年程度前）の値のことをいう。
※2　目標達成度の記入方法
○：評価値が目標値を上回った場合
△：評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

添付様式２－②　その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現の計測

指　標		単位	データの計測手法と評価値の求め方（時期、場所、実施主体、対象、具体手法等）	（参考）※1 計画以前の値（ア）	基準年度	従前値（イ）	基準年度	数値（ウ）			本指標を取り上げる理由	その他特記事項（指標計測上の問題点、課題等）
その他の数値指標1				－	－	－	－	モニタリング	－	－		
								事後評価	確定 見込み			
その他の数値指標2				－	－	－	－	モニタリング	－	－		
								事後評価	確定 見込み			

※1　計画以前の値　とは、都市再生整備計画の作成より以前（概ね10年程度前）の値のことをいう。

添付様式２－参考記述　定量的に表現できない定性的な効果発現状況

（2）実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式３－①　モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況		実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
事業の中間評価(平成25年度)	予定どおり実施した	●	平成25年度に実施。 ただし、スケジュールを優先し、国の様式によらず、本計画の変更に際し最低限必要となる目標を定量化する指標の確認、事業の見直しなどに努めた。	
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由　　)			

添付様式３－②　住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況		実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
十日町地区景観・まちづくり協議会の設立と事業活動	予定どおり実施した		交付期間中において、年に2回の商業祭、2年に1回の有識者を招いての講演会等を行った。	引き続き実行していく。
	予定はなかったが実施した	●		
	予定したが実施できなかった (理由　　)			
事業実施の際の住民参加	予定どおり実施した		本計画に基づく憩いの空間(多目的広場)（A=132㎡)とコミュニティセンターの整備は、住民意向を反映した内容で実施した。	可能な事業では積極的に住民意向の把握・反映に努める。
	予定はなかったが実施した	●		
	予定したが実施できなかった (理由　　)			

添付様式３－③　持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況		実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
			ⅰ．体制構築に向けた取組内容	ⅱ．まちづくり組織名：組織の概要	
事業終了後も、上山市中心市街地活性化協議会等との連携を継続し、官民が目標を共有し、協働してまちづくりを進める。	予定どおり実施した	●	上山市商工会、上山二日町再開発株式会社、上山市観光協会が設立発起人となり、平成20年8月7日に設立	上山市中心市街地活性化協議会 本地区を含む中心市街地の活性化及び地域経済の発展に資することを目的として設立された。 平成24年8月10日に中心市街地活性化基本計画（案）に対する意見書を提出。 中心市街地活性化基本計画の計画期間である平成24年12月から平成29年3月まで存続が決定済み。	本協議会の意見等は、今後の本地区のまちづくりにも反映していく。
	予定はなかったが実施した				
	予定したが実施できなかった (理由　　)				

（3）効果発現要因の整理

添付様式４－①　効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
上山市中心市街地まちづくり推進会議（庁内の横断的な組織）	副市長及び関係各課長級職員（副市長、市政戦略課、財政課、健康推進課、福祉事務所、商工課、観光課、農林課、建設課、管理課、生涯学習課）	平成28年2月22日	建設課（交付金担当課）

添付様式４－②　数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別									
指　標　名									
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	市道軽井沢十日町線								
	市道上山城通り線								
	市道新丁湯町線								
	市道新湯通り線								
	憩い空間（多目的広場）（A=132㎡）								
	憩い空間（多目的広場）（A=173㎡）								
	上山城拠点機能強化事業（広場舗装）								
	駐車場整備事業								
	歩行者誘導舗装整備事業								
	月岡公園外周遊歩道整備計画								
	湯樋線歩道整備								
	西内堀周辺環境整備								
	ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝﾄｲﾚ推進事業								
	ｺﾐｭﾆﾃｨｰｾﾝﾀｰ整備事業								
	温泉クアオルト拠点整備事業								
提案事業	十日町通り電柱移設調査事業								
	上山城拠点機能強化事業								
	高齢者サロン設置事業								
	高齢者サロン設置社会実験事業								
	事業の中間及び事後評価								
	十日町通り景観形成支援事業								
関連事業	無電柱化事業（裏配線）								
今後の活用									

※指標改善への貢献度
◎ ：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○ ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△ ：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
－：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

添付様式４－③　数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標１			指標２			指標３					
指　標　名		中心市街地観光入込客数			歩行者・二輪車通行量			中心市街地への居住意向率					
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	市道軽井沢十日町線	△	観光入込客数は東日本大震災の影響で大幅に減少した。しかし、本計画期間である平成23年度以降観光客数は回復傾向にあり、これには本計画に位置づけた道路や多目的広場、歩行者誘導サイン整備による回遊性の向上などによる効果があったものと考えられる。	Ⅲ	△	観光地でもある本地区の歩行者・二輪車通行量は、東日本大震災の影響により観光入込客数とともに大きく減少した。しかし、平成24年度以降、徐々に通行量は回復しており、本計画に位置づけた関連事業による整備の効果があったものと考えられる。	Ⅲ	△	中心市街地への居住意向率は、目標の達成はできなかったが、従前値より高い割合となっており、本計画に位置づけた関連事業による観光客に配慮した環境整備、観光入込客数の回復によるにぎわい創出が観光地でもある地区の魅力を高め、居住意向率の上昇にも寄与していると考えられる。また、生活関連施設であるコミュニティセンター（平成27年度完成）の供用開始が早ければ、さらなる居住意向率の上昇に寄与していたと考えらえる。	Ⅲ			
	市道上山城通り線	△			△			△					
	市道新丁湯町線	×			×			×					
	市道新湯通り線	△			△			△					
	憩い空間（多目的広場）（A=132㎡）	△			△			△					
	憩い空間（多目的広場）（A=173㎡）	×			×			×					
	上山城拠点機能強化事業（広場舗装）	△			△			△					
	駐車場整備事業	×			×			×					
	歩行者誘導舗装整備事業	△			△			△					
	月岡公園外周遊歩道整備計画	△			△			△					
	湯樋線歩道整備	△			△			△					
	西内堀周辺環境整備	×			×			×					
	ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝﾄｲﾚ推進事業	△			△			△					
	コミュニティーセンター整備事業	×			×			×					
	温泉クアオルト拠点整備事業	×			×			×					
提案事業	十日町通り電柱移設調査事業	－			－			－					
	上山城拠点機能強化事業	△			△			△					
	高齢者サロン設置事業	－			×			×					
	高齢者サロン設置社会実験事業	－			△			△					
	事業の中間及び事後評価	－			－			－					
	十日町通り景観形成支援事業	△			△			△					
関連事業	無電柱化事業（裏配線）	－			－			－					
改善の方針（記入は必須）		より多くの観光客を迎え入れるために観光資源の魅力向上や歩いて楽しいまちづくりを進めるとともに、観光関連事業者等との連携と役割分担のもと、魅力のある観光地づくりを進める。			観光客等の高齢化にも配慮して、中心ルートとなる十日町通りの良好な街並み形成をはじめとする安全で快適に歩くことができる歩行者空間づくりなどに引き続き取り組み、回遊性の向上を図る。また、各種施策と連携して、中心市街地の居住人口の増加を図る。			観光地としての魅力向上とともに、居住者のための生活環境の充実を推進することで、中心市街地への居住意向率の上昇を図るとともに、実際の居住人口の増加を図る。					

※目標未達成への影響度
××：事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の直接的な原因となった。
×：事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の間接的な原因となった。
△：数値目標が達成できなかった中でも、
ある程度の効果をあげたと思われる。
－：事業と指標の間には、もともと関係がないことが
明確なので、評価できない。

※要因の分類
分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

（4）今後のまちづくり方策の作成

添付様式５－①　今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
上山市中心市街地まちづくり推進会議（庁内の横断的な組織）	副市長及び関係各課長級職員（副市長、市政戦略課、財政課、健康推進課、福祉事務所、商工課、観光課、農林課、建設課、管理課、生涯学習課）	平成28年2月22日	建設課（交付金担当課）

添付様式５－②　まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載したまちの課題	達成されたこと（課題の改善状況）	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
目標1　歩いて楽しいまちの形成 上山城周辺には豊富な観光資源が点在している。点在する資源を回遊動線の美装化と安全性の確保等の街並みの整備を行うことにより、訪れる者にとって魅力的なハード整備事業の展開が必要である。	回遊動線の美装化や歩行者を案内するサインの設置、ファサード改修を行うことによって、歩いて楽しいまちの形成は一定程度図られた。 観光資源である上山城等を整備することによって、観光客の誘致を図った。	回遊するルートによっては車両と混在しており、歩行者の安全性の確保が図られない箇所があった。また、ファサード改修支援事業の実施軒数が少なかったことから、十分な街並みの整備とはならなかったため、引き続き歩行者が回遊するまちづくりのため、歩きやすく歴史や街並み、温泉を活かした空間整備が課題である。	本計画に基づく各種事業により環境整備は進んでいるが、交通の要所であるJRかみのやま温泉駅で降りた観光客が宿泊先や観光施設に直接向かうなどしていることから、駅周辺との連携を図り、これら観光客が本地区を回遊するようにしていく必要がある。
目標2　居心地の良いまちの形成 市民意識調査等では、中心市街地へ住みたいという人はわずか15%であり、活力あるまちづくりや生きがいをもって生涯を健やかに暮らせる快適で安心・安全のまちづくりなどの期待が特に高くなっており、市民が暮らしやすい居心地良いまちづくりが必要である。	コミュニティセンターを整備することによって、地域活性化の拠点となる施設を整備した。 月岡公園等のトイレを改修することによって、子供から高齢者まで快適に利用できる空間の整備を行った。	クアオルト拠点施設整備及び高齢者サロン設置事業は設置箇所の選定に時間が掛かることから実施しなかった。中心市街地への居住意向率が目標を達成していないことも踏まえて、これら施設を含め移住や定住につながる住み良いまちの形成のため、居住環境の整備が課題である。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式５－③　今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	観光客の増加	より多くの観光客を迎え入れるため、上山城に隣接する月岡公園の魅力向上や、歴史や街並み、温泉を活かした歩きやすい回遊ルートを整備するなど、歩いて楽しいまちの形成に必要な環境整備を実施する。	・月岡公園整備事業

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改　善　策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	観光に訪れたJRかみのやま温泉駅の乗降客の回遊	市の玄関であるJRかみのやま温泉駅との連携を強化し、鉄道の乗降客が中心市街地へ歩いて行きたくなるような空間の整備を行う。 冬期間でも歩きやすいように、駅前と中心市街地につながる歩道の消雪設備の整備を行う。	・JRかみのやま温泉駅前の空間整備 ・歩きやすい歩道のため、歩道消雪設備を整備 ・ファサード改修支援
	中心市街地を通行する観光客の車両台数の軽減と歩行者数の増	市の交通結節点でもあるJRかみのやま温泉駅前に駐車場を整備し、中心市街地への車両の流入を軽減させ、歩行者の安全を図るとともに、観光客の回遊を図る。	・JRかみのやま温泉駅前の駐車場整備
	居住人口の増加	中心市街地への移住・定住を進めるため、居住環境の整備やコミュニティ活動の核となる施設で行われる住民の自発的な交流を図る事業を支援する。また、住宅の取得や建設を支援する。	・定住促進事業

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式５－③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。（チェック欄）

○	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題（都市再生整備計画）を再確認した。
○	事業の実施過程の評価（添付様式３）を再確認した。
○	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用（添付様式４－②）を再確認した。
○	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針（添付様式４－③）を再確認した。
○	残された課題や新たな課題（添付様式５－②）を再確認した。

添付様式５－参考記述　今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式５－④　目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式２－①、２－②に記載した全ての指標について記入して下さい。
・従前値、目標値、評価値、達成度、１年以内の達成見込みは添付様式２－①、２－②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、１年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指　標		単位	従前値	年度	目標値	年度	評価値			目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
													予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	中心市街地観光入込客数	人/年	265,213	H20	267,000	H27	確定		213,270	△	あり		平成28年4月末	温泉入浴客数、上山城入館者数、武家屋敷三輪家入館者数の平成27年度末までの確定数を関係各課から入手し合算	
							見込み	●			なし	●			
指標2	歩行者・二輪車通行量	人/日	4,692	H21	4,825	H27	確定	●	2,534	△	あり				
							見込み				なし	●			
指標3	中心市街地への居住意向率	%	15	H20	20	H27	確定	●	16	△	あり				
							見込み				なし	●			
指標4							確定				あり				
							見込み				なし				
その他の数値指標1							確定								
							見込み								
その他の数値指標2							確定								
							見込み								

添付様式6　当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	観光客入込数と歩行者二輪車通行量に関しては、モニタリングができたため交付期間中に供用した事業の効果を確認でき、計画変更（新事業の位置づけ等）に反映することができた。	モニタリングのことも想定し、毎年データが容易に算出できる指標とすることが望ましい。 指標の設定当初に想定していなかったようなことが起こった場合などには、モニタリングの結果などを踏まえ指標の変更や目標値の見直しをすることが望ましい。
	うまく いかなかった点	東日本大震災による影響を加味した目標値の見直しを行わなかったため、回復傾向にあるものの目標値の達成はすることができなかった。 中心市街地への居住意向率は、別途アンケートを実施する必要があるため、観光客入込数などとともにモニタリングすることができなかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	指標「観光客入込数」と「歩行者・二輪車通行量」は基本的に毎年度調査されているため、モニタリングを容易に実施することができ、かつ、交付期間中に供用した関連事業の効果を確認することができた。	モニタリングの実施は、事業の進捗状況を確認でき、計画変更などに有効である。 PDCAを円滑に進めるためにも、容易にデータを得ることができる指標を設定することが望ましい。
	うまく いかなかった点	指標「中心市街地への居住意向率」は、確定値を得るためにアンケートを実施する必要があるため、モニタリングができず、事後評価もアンケート実施方法の調整などに時間を要した。	
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

添付様式6－参考記述　今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称（当該地区の次期計画も含む）

本計画により一定の効果を上げることができたが、東日本大震災の影響もあり指標に設定した観光客入込数や歩行者・二輪車通行量は目標には届かず本計画策定当時よりも下回っているような状況のため、第2期上山城周辺地区都市再生整備計画を作成し交付金の活用を図る。

（5）事後評価原案の公表

添付様式7　事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成28年2月22日～3月4日	平成28年2月22日～3月4日	担当課への電話、FAX、メール	建設課（まちづくり交付金担当課）
広報掲載・戸別配布	広報に市のホームページで原案を公表している旨を掲載	平成28年2月15日発行 広報2月15日号	平成28年2月22日～3月4日		
説明会・ワークショップ					
その他					

住民の意見	1名の方から、事後評価以外の内容で以下のような意見をいただいた。 地区内が整備されたことには大変感謝している。 道路照明灯はもっと必要ではないか。 湯町新道にあったトイレが撤去されたが不足していないか確認が必要。 観光案内板は、デザインの統一や適正な配置について検討すべき。 道路は良くなったが、道路清掃のため支援が必要。

（6）評価委員会の審議

添付様式8　評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	温井　亨：東北公益文科大学公益学部教授（委員長）	平成28年3月18日	建設課（社会資本整備総合交付金担当課）	上山市都市再生整備計画評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	鎌上　宏：観音寺住職 羽島　健夫：下十日町地区会長、十日町地区景観・まちづくり協議会会長 石塚　昭宏：山形銀行上山支店長、上山市商工会金融部会長、都市計画審議会委員				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	評価結果については了承された。 本計画に基づき実施した事業については、大いに評価していただいた。 数値目標の達成状況についても、東日本大震災を影響を踏まえた評価が了承された。
	実施過程の評価	評価結果については了承された。 コミュニティセンターや憩い空間(多目的広場)整備における市民との協働実績も載せるべきという意見をいただいた。
	効果発現要因の整理	効果発言要因の整理については、了承された。 各事業を実施する前に市民に対して十分な説明をし、理解を得ることができていればもっと効果が上がったのではないかという意見をいただいた。
	事後評価原案の公表の妥当性	事後評価原案が、市民に対して適正に公表されたことが確認された。
	その他	目標指標「観光入込客数」のH27(見込み値)が少ない要因をもっと詳細にすべきであるという意見をいただいた。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	本計画に基づき整備された良好な環境を活かしたまち歩きの充実や、歴史的・文化的魅力がある本地区の特徴を活かした取り組みなど、今後のまちづくりに対する具体的アイディアをいただいた。
	フォローアップ	フォローアップは適正と認められた。
	その他	特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくり方策は妥当と認められた。
その他		特になし

※1　審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

（7）有識者からの意見聴取

添付様式９　有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理（添付様式5）、今後のまちづくり方策の検討（添付様式6）、まちづくり交付金評価委員会の審議（添付様式9）以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
特になし		

有識者の意見	